

令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月25日(月)

会場: 三次コミュニティセンター

1. 地域の防災

項目	参加者の発言	市の発言
民間事業者の所有スピーカーの活用	住民に避難するよう知らせる方法としてサイレンが有効と考えるが、三次町内にはサイレンがない地区もある。その地域には民間企業が所有する既存のスピーカーがあるが活用できないのか。	・市では、避難情報について、旧三次市内のサイレンのほか、音声告知放送、市ホームページ、メール、SNSなど、多重的な発信に努めている。また、民間のテレビ局等と協定を締結するなど速やかな情報提供を模索している。市民の方にはこうした情報を入力してほしい。 ・民間企業所有のスピーカーの活用については、今後も協力を依頼していく。今あるものを活用できればと考えている。 ・自主防災組織が屋外サイレン等を整備する場合は、交付金が使えるので、参考としてほしい。
市所有スピーカーの活用	日下町にある市所有のスピーカーを、三原町まで伸ばすことは可能か。	日下町のサイレンの延長については、技術的な面も含めて検討してみたい。
避難所の環境整備	昭和47年水害で被害に遭わなかった三次中学校にはトイレがない。環境の整っている場所へ避難したい。	・避難所に従事する職員からは避難所の状況報告を受けている。実情を踏まえて避難所の位置付けを変更することもあり得るので、課題については引き続き協議をしたい。 ・避難所の施設をすぐに改善することは難しいので、簡易トイレや段ボールベッド、間仕切りなどの整備を進めている。今後も安心できる避難所の整備に努める。
避難所のあり方	妖怪博物館について、一時的な補助避難施設のような運用はできないのか。三次町は、様々な災害のリスクがあることから、住民が速やかに避難できる環境づくりを進めるとともに、防災意識を浸透させないといけないと思う。	妖怪博物館を避難施設とすることについては検討したい。避難所の運営については市においても人員が不足しており、地域の皆さんの意見を伺いながら、あり方や運営方法等の見直しを検討したい。
浸水地区への対策	・過去に浸水した地区への対策をしてほしい。 ・仮設ポンプを増やすと費用も高くなる。水位が上がらないうちに、早めにポンプ作業をすることが大切。 ・災害時にはリース品も品薄になるので、市で予備を持っておいたらどうか。 ・市の職員と地域住民が、対応の都度意見を交換し、マニュアル等により引き継いでほしい。	・中所地区や寺戸地区については、速やかにポンプ作業を行えるよう対策を進めている。 ・仮設ポンプのほか、市では、令和元年度に購入した排水ポンプ車を機動的に活用して内水被害の軽減を図っている。更に、県に対しても、県北部への排水ポンプ車の配備を要望している。
防災意識の向上について	・町民の防災意識の向上を図るため、今年度中に、学習会や避難訓練を実施する計画である。 ・自主防災組織が取組を進めているが、常会の弱体化、自主防災組織役員の高齢化、若者の会社勤めなどから、自主防災の共助が弱くなっており、特に、補助避難所の開閉設・運営が課題となっている。	・気候変動の影響もあり、急激な増水などによる危険も高まっている。自分たちの命は自分たちで守るという意識が大切であり、防災意識の啓発に努めていく。 ・災害時には地域の日常的なつながりの中で避難行動ができる。 ・昭和47年水害の経験を今後に生かすため、今年度は、関係機関のほか高齢者施設などにも参加いただいて大規模洪水訓練を実施した。来年度以降、より多くの市民が参加できる形での訓練を検討している。
情報発信について	三次町ではケーブルテレビの加入率が3割。高齢者にとってスマートフォンはまだハードルが高い。	情報の届け方については、地域の実情に応じて検討していきたい。
稲荷町グラウンドについて	稲荷町のグラウンドを補修して使用することは、非常に考えにくい。しかし、高齢者や子どもたちのため、代替地などを検討してほしい。子どもたちが野球やサッカーをする、お年寄りの皆さんがグラウンドゴルフをすることができる環境を、一緒に考えてもらいたい。	稲荷町グラウンドは、高齢者のグラウンドゴルフ、子どもたちの野球やサッカー等に活用されているが、ここ数年で浸水が多発しており、その都度、かなりの復旧費用がかかっている。そのため、市は、将来の気象環境などを踏まえ、今後は、浸水して被害を受けたとしても、完全復旧をしない方針であることを報告させてもらう。

令和3年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月25日(月)

会場:三次コミュニティセンター

2. 持続可能なまちづくりについてなど

項目	参加者の発言	市の発言
ふれあい会館の利用について	時代の変化とともに、三次地区自治会連合会も変化をしなければならず、住民の皆さんがより一層、ふれあい会館を使用し、馴染んでもらう環境づくりをしていかないといけないと考えている。	-
自治会運営について	三次町にも若い人が住みはじめているが、自治会や常会への加入率が低い。自治会や常会へ加入してもらう方法はないか。	・特に、市街地では、自治会加入率の低下に悩まれている。地域で何か集まるきっかけがある地区は、地域のつながりを維持できていると感じる。どうすれば常会に加入してもらえるかについては、引き続き、一緒に考えていきたい。 ・若い人の常会への加入率が低いことは、市内の19住民自治組織に共有する問題である。市では、常会に加入するメリット(防災などの共助の観点)を記載したパンフレットを作成している。自治組織で活用してもらいたい。
事業に対する住民への説明	三次地区にぎわい創出事業では、栄町の小路や、本通りの多目的公園の設置などが進められているが、毎回、住民から、説明が遅いという声が出てくる。職員が自治会活動に参加するなど、日頃の付き合いを大事にしながら、迅速かつ丁寧に、住民への説明をしてほしい。	コロナの影響もあり、情報共有の場が少なくなっている。今後は、本日の市政懇談会のような機会を通じて、地域との情報共有を図っていきたい。
妖怪博物館の活用	・三次町には、妖怪博物館という魅力的な施設があるので、賑わい創出、交流人口の誘客を含めて、三次地区まちづくりビジョンに沿った形で、自治連としてもバックアップをしていきたい。 ・しかし、インフラの整備等が必要になってくる。また、市民や町民の来館を増やすとともに、施設運営のためにも、市民割りや町民割りをしながら、理解を深める活動も必要ではないか。	・道が狭いなどの問題もあることから、地域の皆さんや観光客など歩行者の安全を確保するように、県と検討をしている。 ・コロナの影響もあり、妖怪博物館の入館者数は激減している一方、メディアの関心は依然として高い。当該施設を起点として、三次町にどう誘客させるのかなど、ハード面とソフト面とも大きな課題があるが、三次町の石畳を歩き、歴史的な文化に触れてもらう仕掛けをしていく。 ・行政主導ではなく、民間や地域の人などの多様なマンパワーをつかって、いろいろな角度からの話し合いが必要である。三次町にある魅力的な素材を生かせるような取組を専門家の皆さんを交えて模索していきたい。
道路管理について	道路への障害物について、車や人の安全のため、行政の方から処理してほしい。	担当部署と共有していく。
若者の参加	子育て世代は、仕事や子育てに追われ、自治会の活動に参加しづらいが、参画できる環境づくりを進めなければならないと考えている。また、これまで、高齢者の方々が担ってきた草刈りなどの自治会活動について、若者を取り込みながら、持続的な体制をつくる必要がある。魅力的なまちづくりをしていけば、その中で自然と参加する方も増えてくるのではないか。	・草刈りについて、どの地域でも人材不足であることは認識している。一方、ボランティアをしたいという人は潜在的におり、その潜在的なマンパワーを引き出す取組として、今年度、『ジモティー』というマッチングアプリを使い、草刈りをしたい人と草刈りをして欲しい場所のマッチングに関する実証実験をしている。デジタルやテクノロジーを活用しながら、意欲はあるが、その力を発揮する場所がないと考えている方を可視化していきたい。 ・皆さんからの意見を参考にさせてもらい、今後の地域づくりのあり方を引き続き追求していきたい。
三次町本通りについて	・本通りの多目的公園の整備について、市担当部署から、地域のイベントでも使用してもらいたいという説明があった。しかし、三次町には駐車場が少なく、駐車場にする方がいいのではないか。 ・また、本通りでは、速度を出す車が多いことから、ドライバーへの注意喚起のためにも、「30キロ規制」とナビで流れるようにしてほしい。事故のない安全なまちづくりを進めていくため、対策と一緒に考えてほしい。	担当部署と共有して、できることは進めていく。